

楽々コース「初秋の東山歴史探訪」のポイント

実施日 2017 年 9 月 29 日

①旅館辻野跡（解説のみ）

蹴上浄水場の中腹にあり「みだれ髪」に収められた多くの歌が生まれた。与謝野晶子の詠んだ「お目覚めの鐘は知恩院聖護院いでてみたまえ紫の水」の歌碑が残る。普段は立ち入りが禁止されており年に数日公開している。

②ねじりまんぼ（蹴上トンネル）

天井には強度を増すために、レンガが螺旋状に組まれていてねじれて見えることからこの名がつく。まんぼとはこの構造のトンネルの総称である。

③金地院（こんちいん）

黒衣の宰相の異名をとった金地院崇伝（1569～1633）が住したところ。日本に三つしかない東照宮と小堀遠州作の「鶴亀の庭」が有名な隠れた名所。

<参考>東照公遺訓

- 一. 人の一生は重荷を負て遠き道を行くが如し、急ぐべからず。
- 一. 不自由を常とおもえば不足なし。
- 一. 心に望み起らば困窮したる時を思い出すべし。
- 一. 堪忍は無事長久の基、怒は敵と思え。
- 一. 勝事ばかり知りて、負けることを知らざれば、害その身に至る。
- 一. 己を責めて人を責むるな。
- 一. 及ばざるは過ぎたるより勝れり。

④順正書院（じゅんせいしゅいん）

江戸時代の蘭学医新宮凉庭（1787～1854）が開設した医学学問所で門弟が現在の府立医大の礎を築く。湯豆腐の南禅寺順正の敷地内に残っている。

⑤南禅寺

日本最初の勅願禅寺であり、全国の禅寺の中で最も高い格式を持つ。三門は歌舞伎「桜門五山桐」で「絶景かな」と石川五右衛門が見得をきることで有名。

⑥野村美術館

実業家二代目野村徳七（1878～1945）が築造した野村碧雲荘～野村美術館あたりの別荘群の土地は、当初工場群になる予定だったのが、山形有朋（1838～1922）が無鄰菴を造ったのをきっかけに別荘群として開発された。

⑦細川別邸

野村碧雲荘の傍にある細川別邸の枝垂れ桜はガイドブックの定番。

⑧永観堂（見返り阿弥陀）

修行する永観（1033～1111）に突然、安置してある阿弥陀像が壇を下りて永観を先導し行道をはじめられた。この時、阿弥陀は左肩越しに振り返り、

「永観、おそし」と声をかけられた。真正面からおびたしい人々の心を受けとめても、なお正面にまわれない人びとのことを案じて、横を見返らずにはいられない阿弥陀仏の慈悲深い姿を、後世に伝えたいと永観は思ったのだろう。

⑨若王子神社（にゃくおうじじんじゃ）

社名は天照大神の別称「若一王子」に因んでいる。京都三熊野の一つで哲学の道起点。裏山に同志社創設の新島襄の墓がある。（**昼食、トイレあり**）

⑩哲学の道

若王子橋から銀閣寺橋までの約2キロの散歩道。入り口にある叶匠寿庵の「京都茶室棟」では1000円程度で茶道点前など体験できる。道の中ほど法然院近くに西田幾多郎の詠んだ「人は人 吾はわれ也とにかくに 吾行く道を吾は行く也」の石碑が建っている。桜は橋本閑雪の妻・よねの提案で寄付された。

⑪大豊神社（おおとよじんじゃ）

狛犬ならぬ狛ネズミのある小さな神社で最近人気が出てきたが、それまでは知る人ぞ知る。平安時代前期（887年）に宇多天皇の病氣平癒のために創建された。ネズミの他にも狛猿、狛鷹、狛狐など神のお使いが一度に見られる。

⑫霊艦寺（れいかんじ）

臨済宗南禅寺派の門跡尼寺。1654年後水尾天皇が皇女を開基として創建。皇室ゆかりの品を多く有しており、名椿がたくさんあることで有名。

⑬鹿ヶ谷山荘（ししがたにさんそう）

霊艦寺より大文字山に向かう途中、平安末期の僧・俊寛（1143～1179）らが平家の横暴に憤慨し、平氏を滅ぼそうと謀議を行った山荘跡。多田行綱の密告により俊寛は喜界島に流刑。この悲劇は能や歌舞伎にも語られる。

⑭安楽寺（法然上人、住蓮上人・安楽上人）別名：松虫鈴虫寺

後鳥羽上皇（1180～1239）の女官で、かわいがっていた松虫姫と鈴虫姫が住蓮上人と安楽上人の説法に感銘を受け出家して尼僧になるが、上皇がこれに激怒して、住蓮上人、安楽上人を死罪に、法然上人を流罪としてしまう。流罪先から京都に戻った法然上人が、ふたりの御霊を供養するため創建した。

⑮法然院（谷崎潤一郎の墓・森のセンター）

寺の起こりは、鎌倉時代に法然（1133～1212）が弟子たちと共に六時礼讃行を修した草庵に由来する。谷崎潤一郎、川上肇、九鬼周造など有名な学者・文人・画家の墓が数多く存在する。森のセンターはNPOの市民グループが運営する環境学習活動を目的に建てられた施設。（**トイレあり**）

⑯浄土寺橋（じょうどじばし）

銀閣寺道と合流し、白沙村荘前を少し西に歩くと本日の終点の浄土寺橋。

東山コース No2（日向大神宮から銀閣寺道へ）

蹴上の「ねじりマンボ」を通り抜けると、標識「東山 No.31」から右へインクラインの石垣に沿った坂道です。発電所の導水管もあります。琵琶湖疏水の設計者である田辺朔朗博士の銅像を左に見て、インクラインのレールを渡ると立派な石灯籠があります。この脇の標識「No.32」を左に折れ、日向大神宮の参道を登ります。

やがて、青龍山安養寺。そして、舗装された急坂を登りきると日向大神宮です。朝日宮・日岡神明宮とも呼ばれ、元伊勢とも言います。この先、銀閣寺までトイレがありませんので、社前石段左の観光トイレで用を済ましておきましょう。

これまでのトレイルコースは、神社の前を直進し竹藪を左に見て苔むした石段を登りましたが、新しく日向大神宮境内を通るコースができました。内宮本殿の左手から、標識「No.33-2」を折り返すように登ると「天の岩戸」の前に出ます。延長 10m ほどの岩穴ですが、通り抜けて山道を登ると三叉路になります（標識「No.33-3」）。左方向に下る道は、南禅寺の水路閣の上に出ます。ここを右に向かい、標識「No.38」「No.39」のある思案処（思案ヶ辻）で従来のコースと合流します。

見晴らしはないものの、絶好の休憩場所です。

よく踏まれたコースを、標識「No.39」に向かうと、やがて山科方面の眺望が開けます。「No.40」を右折し、「No.41」は直進します。右へ入る道は林道に続き、後山階陵から毘沙門堂門跡を経て JR「山科」駅へ出ることができます。平坦な道に変わり、途中にある防火線の切り開きからは、平安神宮の鳥居を正面に京都市内を望むこともできます。

標識「No.42」から左に入れば、新島裏や徳富蘇峰などが眠る若王子墓地や若王子神社に下ることもできます。

標識「No.43-2」では尾根道を右折して下り、標識「No.44-2」の分岐では左折します。ここを右折すると、後山階陵から毘沙門堂門跡を通して JR「山科」駅へ行けます。

標識「No.45-1」が大文字山の「四つ辻」です。直進の急坂を登り西へ向かうと、大文字山（465.46m）の三角点。南に山科盆地、西には京都盆地が眺められる絶好の展望台です。

コースは、標識「No.45」を左に談合谷の沢筋を「楼門の滝」へ向かいます。

800m ほど下れば「俊寛僧都忠誠之碑」が立つ標識「No.46」で、その下に滝があります。別名を「如意滝」といい、平安時代末期には「如意寺」（三井寺の別院）が隆盛を誇っていました。

碑から苔むした急な石段を下れば、七曲りを経てトレイルコースに合流します。石段が湿っているときは滑りやすく、とくに注意が必要です。林道との合流地点に標識「No.47-2」があります。

急な舗装道路を下れば霊鑑寺で、角に標識「No.48」が立っています。この寺は臨済宗南禅寺派の門跡尼寺で、1654 年に後水尾天皇の皇女を開基として創建されました。代々皇女が住職を務め、谷御所や鹿ヶ谷比丘尼御所とも呼ばれています。

コースはここで北に右折し、鈴虫・松虫の供養塔で知られる安楽寺を過ぎると、深い樹木に覆われた法然院が静寂なたたずまいを見せています。標識「No.49」で左折し、疏水を渡って「哲学の道」を北へたどれば、標識「No.51」で銀閣寺門前の道になります。あとは、疏水に沿って白川通まで、観光客が多く行き交う賑やかな道です。桜の季節がお勧め。

《所要時間》

地下鉄「蹴上」駅〈1 分←→1 分〉ねじりマンボ No.30-2 〈15 分←→20 分〉日向大神宮 No.33-1 〈20 分←→20 分〉思案処（思案ヶ辻）No.39 〈30 分←→30 分〉若王子墓地分岐 No.42 〈30 分←→35 分〉大文字山分岐（四つ辻）No.45 〈60 分←→35 分〉浪切不動 No.47-2 〈45 分←→25 分〉銀閣寺道 No.51

〔地下鉄「蹴上」駅 〈3 時間 25 分←→2 時間 50 分〉銀閣寺道 No.51〕

（ねじりマンボ No.30-2 銀閣寺道 No.51）